

特集
あいち歴史さんぽ



あいち歴史さんぽ

愛知県図書館は、県指定文化財の国絵図をはじめ、貴重な地域資料を収集・保管しています。更に、より多くの方に気軽にご利用いただけるよう、資料のデジタル化にも取り組んでいます。

今回は、その中から、愛知が生んだ三英傑や、愛知県の前身である尾張国と三河国の名所等をご紹介します。紙面でのんびり歴史さんぽしてみましょう。

今回紹介する貴重資料

ホームページで公開しています

和本



明治以前の愛知県関係資料を約 2,700 冊所蔵しています。歴史、伝記をはじめ収集分野は多岐にわたります。順次デジタル化をすすめています。

HP



絵図



江戸元禄期の尾張・三河の国絵図をはじめ、名古屋城下絵図、村絵図など、江戸から明治初期の手描き絵図約 700 点をご覧ください。

HP



絵はがき



明治から昭和中頃にかけて発行された、愛知県内の名所、旧跡や記念行事などを紹介した絵はがき 108 セットをご覧ください。

HP



こんな資料も所蔵しています

明治期の教科書



明治期の学校の教科書を約 1,250 冊所蔵しています。愛知県教育振興会から移管された資料が中心です。

名古屋豆本



名古屋タイムズ社長で、詩人、画家でもある亀山巖氏が 1967 年から 22 年間にわたり発行した全 116 冊及び別冊を所蔵しています。



ほんのうじやきうち の ず
『本能寺焼討之図』延一画
明治期刊

明治期の錦絵。右端に信長、中央には信長に槍を向ける明智光秀の家臣安田作兵衛、左に森蘭丸の姿が描かれています。



おだのぶながふ
『織田信長譜』林羅山編
明暦 4 年(1658)

江戸幕府の命令により編集された『將軍家譜』の一編。巻頭に織田氏系図があり、信長の生涯が漢文で書かれています。

尾張生まれ



織田信長



しんせんたいこう き
『新撰太閤記』豊宣画 明治 16 年(1883)
羽柴秀吉柴田勝家ニ按摩ヲスルノ図

太閤記を題材にした錦絵。信長の仇討で先をこされた柴田勝家と佐久間盛政が秀吉を懲らしめようとする場面を描いた作品です。



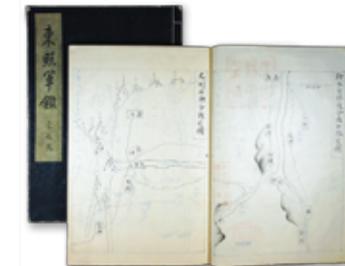
ほうこういほうずりやく
『豊公遺宝図略』真静撰
天保 3 年(1832)

秀吉の遺品の目録。焼失した京都の方広寺大仏殿の再建の資金集めとして秀吉の遺品が展示公開されました。

今の名古屋市中村区に家があった



豊臣秀吉



とうしょうぐんかん
『東照軍鑑』近世期写

家康とその祖である松平八代の伝記。各合戦の陣場図、陣形図をまとめた巻が他の資料にはない特徴です。



ごねんぶ
『御年譜』近世中後期写

家康の生涯が書かれたもの。家康の九男で、初代尾張藩主である徳川義直がまとめたとされています。

岡崎城がふるさと



徳川家康

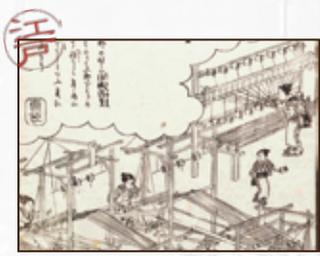
尾張の歴史さんぽ

— は東海道 ● は宿場町



つしましがく
①「津島試楽」

津島神社の「尾張津島天王祭」は600年近くの伝統を誇る祭礼で、平成28年(2016)ユネスコ無形文化遺産に登録されました。



ゆうきじま おりや
②「結城縞 織屋の図」

尾西地域では、江戸後期から絹綿交織の結城縞の生産が盛んでした。明治以降は毛織物へ転じ、日本屈指の織物地帯へ成長します。



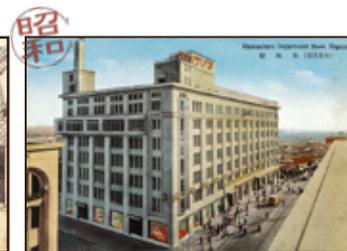
③「名古屋城」

慶長14年(1609)に家康が那古野城跡に城を築くことを決め、諸大名に命じて天下普請を行いました。戦災で焼失後、昭和34年(1959)に現在の天守閣が再建されました。



④-1「伊藤呉服店」(左)と④-2「松坂屋」(右)

松坂屋は名古屋を代表する百貨店の老舗。その前身は、慶長16年(1611)、信長の家臣伊藤蘭丸祐道が名古屋本町に創業した「いとう呉服店」でした。



とうかいどう ごしゅうさんつぎ みや
⑤「東海道五十三次 宮、明治初年の熱田神宮本殿」

三種の神器の一つ草薙剣がご神体。門前にある宮宿から桑名宿までは東海道で唯一の海路でした。



① 津島

③ 名古屋城

④ 名古屋城下町

⑤ 熱田神宮

宮宿

鳴海宿 ⑦ 有松

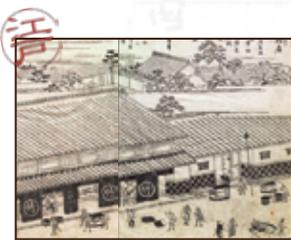
⑧「大日本麦酒半田工場」

知多半島は、酒・醤油・酢などの醸造業が盛んな地域です。この半田工場は、明治31年(1898)カプトビール醸造所として誕生し、後に大日本麦酒に合併されました。現在は半田赤レンガ建物として保存・活用されています。



⑥-1「瀬戸陶器職場」(左)と⑥-2「瀬戸陶器製作所」(右)

瀬戸とその周辺で作られる陶磁器は「せともの」と呼ばれ、陶磁器の通称になるほど広く流通しました。



ありまつしほり
⑦「有松絞店」

有松・鳴海で有松絞りが考案され、江戸期に旅人の土産物として人気を博しました。東海道沿いの町並みは今も当時の様子を伝えています。



⑨-1「常滑陶造」(左)と⑨-2「陶都常滑港」(右)

常滑は古くから窯業が盛んで「常滑焼」で知られています。中世以来の大甕や大壺に加え、庶民の生活必需品を多く生産し、港から積み出されて消費地に運ばれました。



⑨ 常滑

⑧ 半田



尾張の主な地誌、絵図



おわりし
『尾張志』 深田正韶撰
天保15年(1844)序
全60巻からなる藩撰地誌。



おわりしんこうき
『尾張徇行記』 樋口好古著
文政5年(1822)
尾張八郡の詳細な記録。



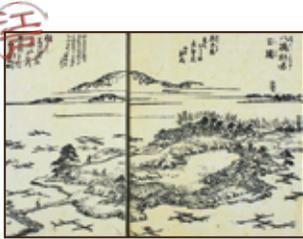
きょうほうしゅうよんとりどしなごやえす
『享保十四西年名護屋絵図』
享保14年(1729)屋敷地には藩士の名前や間口、また幅下水道、悪水の流路等が描かれています。

三河の歴史さんぽ

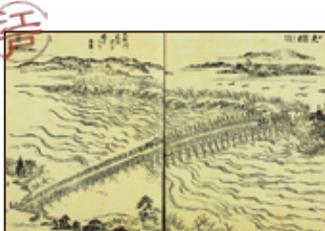
— は東海道 ● は宿場町



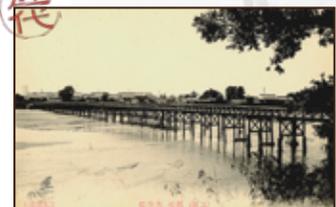
①「池鯉鮒馬市」
池鯉鮒(知立)は、東海道の宿場町、三河二之宮知立神社の門前町として発展し、馬市や木綿市でにぎわいました。



②「八橋古蹟」
知立の八橋は『伊勢物語』の昔から知られるかきつばたの名所。しかし、②には「すべてこの辺田畑にして、八橋、燕子花の俤もなし」とあります。現在は多くのかきつばたが植えられています。



③-1「矢矧橋」(左)と③-2「(三河)岡崎矢作橋」(右)
長さ208間(約374m)で、江戸時代には東海道随一の長橋と言われました。現在の橋は16代目。



④「(三河宮崎)白浜吉田塩田の景」
吉良周辺の塩田による塩づくりは戦国時代から続いていましたが、国による製塩工程の近代化促進により昭和46年(1971)末に廃止されました。



⑤-1「豊川稲荷御本堂」(左)と⑤-2「愛知電鉄線路圖」(右)
室町時代に創建され、江戸時代には商売繁盛の神様として全国的に信仰が広がった豊川稲荷。これは明治43年(1910)に設立された愛知電気鉄道が、御参詣記念として発行した絵葉書です。



⑥-1「鳳来寺」(上)と⑥-2「三河鳳来寺山」(下)
鳳来寺山は、山全体が国の名勝・天然記念物で、中腹に鳳来寺があります。仁王門は徳川家光によって建立された国の重要文化財です。



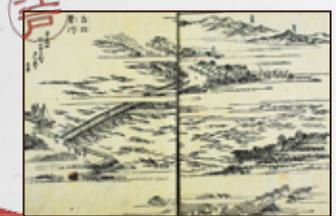
⑥ 鳳来寺



⑦ 長篠古戦場



⑦「長篠古戦場 長走の景」
天正3年(1575)、織田・徳川連合軍が、武田軍を破った長篠設楽原の戦いの地。武田の騎馬隊をくいとめるために築いた馬防柵などが地元の保存会によって復元され、守られています。



⑧「吉田豊川」
吉田は、豊川のほとりに立つ吉田城下に栄えた大きな宿場町です。現在の豊橋市のほぼ中心部と重なります。



三河の主な地誌、絵図



『三河国二葉松』佐野知亮著
元文5年(1740)跋
三河一国でまとまったものとしては最初で、かつ代表的な地誌。



『三河堤』本間長玄著
寛政2年(1790)頃
図は巻4額田郡収載の「岡崎城之図」。



『田原藩領分図面』
明治3年(1870)頃
明治初期における藩の管轄図を集めた『諸藩管轄絵図』の一つ。

